

目指すべきは8000万人での人口定常化

- ・人口定常化として目指すべきシナリオはBケース。2100年に8000万人で人口が定常化することを目標とすべき。そのためには、2040年ごろまでに1.6、2050年ごろまでに1.8に到達することが望まれる。
- ・人口が定常化しはじめると、同時に高年齢化率はピークを打って低下していく「若返り経路」に乗る。高年齢化率は、このままだと4割の水準で高止まりするが、Bケースでは30%（2100年）にまで低下。

＜「人口定常化」をめぐる4つのケース(独自試算)＞ (資料)国際医療福祉大・人口戦略研究所

	2100年の人口の規模と構造			
	総人口	高年齢化率	外国人割合	人口の状況
Aケース(出生率急回復) 2040年にTFR=2.07 2040年以降国際移動均衡	9100万人	28%	10.4%	・総人口は定常化の軌道に入る。 ・高年齢化率は35% (2052年)をピークに、現在と同水準(28%)に低下。外国人割合は10%。
Bケース(出生率回復) 2060年にTFR=2.07 2040年以降国際移動均衡	8000万人	30%	10.4%	・総人口はほぼ定常化の軌道に入る。 ・高年齢化率は36% (2054年)をピークに、30%に低下。 ・外国人割合は10%。
Cケース(将来推計・中位推計) TFR=1.36、外国人入超(年間16.4万人)	6300万人	40%	15.5%	・総人口は、安定せず、減少し続ける。 ・高年齢化率は40%で高止まり。 ・外国人割合は15%を超える。
Dケース(将来推計・低位推計) TFR=1.13、外国人入超(年間16.4万人)	5100万人	46%	15.6%	・総人口は、安定せず、減少し続ける。 ・高年齢化率は46%で高止まり。 ・外国人割合は15%を超える。

